

**事務局**

**【ILSI Japan 総会】**

1, 2 月	<p>平成 29 年通常総会が平成 29 年 2 月 22 日(水)10:00 より神田カンファレンスで開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 平成 28 年度事業活動報告書案が承認されました。</p> <p>第 2 号議案 平成 28 年度決算報告書案が承認されました。</p> <p>第 3 号議案 平成 29 年度事業活動計画書案が承認されました。</p> <p>第 4 号議案 平成 29 年度収支予算書案が承認されました。</p> <p>繰越金を研究会活動に配分すべきとの提案があり、理事会で今後検討することとした。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 本部総会報告</p> <p>2017 年の ILSI 本部総会の概要を報告。</p> <p>One ILSI 戦略を強化すべく食品安全、栄養の 2 分野に絞り、支部間協働テーマを創設すべく議論が重ねられた。詳しくはイルシー誌 No.130 及び ILSI ウェブサイト参照。</p> <p>2. 定款変更について</p> <p>2016 年の支部総会にて、役員任期を総会までにするという定款変更を決議したが、違法となるケースがあるので「不認証」との連絡を受け、変更を中止したことを説明した。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

**【事務局】**

1, 2 月	特になし
3, 4 月	3 月末日付にて退職者 2 名、特別顧問 浜野氏、総務担当 池畑氏。サントリーOB 太田氏と業務委嘱契約を締結し、3 月 1 日より業務開始。
5, 6 月	5 月 8 日から、次長として、在田典弘氏（元バイエル・クロップ・サイエンス（株）勤務）と雇用契約締結、主にバイオテクノロジー研究会の事務局業務を担当。
7, 8 月	特になし。
9, 10 月	<p>第 4 回理事会を平成 29 年 10 月 27 日（金）に開催。</p> <p>決議事項</p> <p>新監事就任の件</p> <p>小路監事の後任監事として森永製菓株式会社の守田稔氏を承認。</p> <p>報告・討議事項</p> <p>&lt;研究会活動の活性化&gt;</p>

	<p>1. 健康な食事研究会進捗報告</p> <p>WG1の佐々木先生から「今ある論文では、健康な食事の概念をまとめることは難しい。食事摂取基準をひとつの目安として、BDHQで人をグループ分けし、食事を写真でアプリに入力してデータを集め、それで食事の助言をし、集めたデータを解析して食事摂取基準を改善したい。」との提案をいただき、この方向で、時間軸を決め11/6の全体会議で方向付けを行う予定。</p> <p>2. 発展型寄付講座創設の報告</p> <p>AIの技術者、専門家と議論しつつ、新寄付講座の可能性の検討を継続中。理研、産総研との議論も進み、また、弘前のデータのクレンジングも進んできて、年内には見極めができる状況。</p> <p>また、新寄付講座のひとつの方向として、動物試験代替がありうる。ILSI EUで動物試験代替のTFが2016年の後半に立ち上がり活動開始。このTFの活動にリスク研究部会が参画することになった。</p> <p>講座開設先としての弘前COIの選択への疑問点、注意点、動物試験代替のEUの動きに関する助言等が出された。</p> <p>3. 研究会・研究部会への活動支援—予算枠と審査委員会の承認</p> <p>申請書に基づき、審査委員会にて11/20審議予定。予算枠は、一研究会・部会で30万円×5部会=総額150万円で、対象は「食品微生物部会」、「食品リスク研究部会」、「栄養研究部会」、「茶情報分科会」、「バイオテクノロジー研究会」の5部会、審査員案を提案し、承認された。</p> <p>4. 栄養とエイジング国際会議：企画概要案・企画委員会案</p> <p>総合テーマは、「食事と運動による健康寿命の延伸（仮）」とし、2部構成にて行う。日程は、2019年9月末の2日間、東大農学部 弥生講堂にて開催。企画委員長は宮澤理事に依頼し、他の企画委員は、今後打診。アジア栄養学会議が同じ時期に開催されるので、日程が重複しないようにとの助言があった。</p> <p>&lt;2017年決算見込、2018年予算一次案&gt;</p> <p>当年の収支見込を計算したところ、ILSI Japanの損益は黒字だが、CHPの損益は赤字の予定。来年の収支を計算するとILSI JapanもCHPも共に赤字の予定。CHPの赤字は、近年の会費の減少が根源的な要因。次回理事会までに改善策を出すことにした。</p> <p>&lt;連絡事項&gt;</p> <p>1. 2018年理事会日程</p> <p>2. 本部総会の日程・開催場所</p> <p>2018年1/19～24日、場所はバミューダ。各支部からの科学セッションがあり、そのセッションで日本からは食品微生物部会が成果を発表する。</p>
11, 12月	特になし

## 【理事会】

1, 2 月	<p>第1回理事会が平成29年2月7日（水）15時より開催された。</p> <p><b>決議事項</b> (総会議案)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>平成28年度活動報告書案 報告の手順として、「本部との関係」「トピックス」「各研究部会活動」「CHPの活動内容」とし、内容として「組織図」を入れるなど初めて出席する会員にも分かり易くすべしとの意見に従い、修正することにした。</li><li>平成28年決算報告書案 繰越額について議論があり、今の額が決して多くはないとの意見が出た。また税金の支払いについて質問が出た。ILSI Japanの会計が3つの会計単位から構成されていることの説明が不十分の指摘があり、修正することにした。</li><li>平成29年度活動計画書案 CHPの活動体制整備の具体論を書き加えることとなった。新寄付講座の内容について、質問や意見が出たがさらに議論を重ねることが必要とのことで議論終了。</li><li>平成29年度収支予算書案 CHPの資金不足に質問が出て、新たなドナーの確保のことや本部移管検討の状況について、担当理事に対して確認があった。</li></ol> <p><b>報告</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>支部総会報告事項</li></ol> <p>① 本部総会報告 発表内容を事務局長が説明、特に意見はなし。</p> <p>② 定款変更 前総会にて役員任期の変更決議をし、都庁に申請したが、違法となるケースがあるため不認証となった。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>健康な食事研究会 シンポジウムに、食品産業記者会の記者が参加できないことがわかり、記者説明会を設定することにした。</li><li>発展形寄付講座 質疑なし。</li><li>その他 サントリーOBの太田氏が、浜野氏後任として3/1から事務局次長として勤務開始。</li></ol>
3, 4 月	<p>第2回理事会が平成29年4月21日（金）15時より開催された。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>決議事項 議案 古野純典氏の理事退任承認 満場一致で承認された。</li><li>討議事項 今後の活動方針</li></ol> <p>① 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 健康な食事研究会状況報告 設立シンポジウム開催後の活動について事務局長より報告。 外食産業記者会への説明、入会の呼びかけ、参加企業名、JST未来社会創造事業への申請、第1回研究会開催予定、組織案。</p> <p>イ) 発展型寄付講座創設に向けて - タスクフォースによる方向付けの中間報告 安全性に関わるテーマの具体化：産業界からの要望ヒアリング、識者との動物実験代替に関する議論 中間報告：①食品安全性の新たなプラットフォーム構築、 ②健康リスクの回避のためのマーカー開発</p>

	<p>以上について報告があり、その後、理事等の中で経緯の説明や討議がされた。</p> <p>ウ) 研究会・研究部会への活動支援      予算策定に合わせ、各会より活動計画とその概算要求を提出いただき、それを理事会で審査、来年の支給額を決定する。</p> <p>② 公共性明確化・ガバナンス強化      ア) 本部理事会の役割の明確化      本部理事会と支部のコミュニケーション不足を理由に「英文:本部理事会の役割」資料を読み、各支部の認識を深めるよう指示があり、理事会に事務局長が説明。ILSIは公益のための組織であること、企業の利益のために動くのではないこと等。</p> <p>イ) 策定すべき指針 (Mandatory policies) の実行      理事の利益相反関係宣誓書、事務局長の職務記述書、文書保管廃棄指針、旅費精算指針等を日本語に翻訳、日本支部版用に編集し、7月の理事会で確認予定。</p> <p>③ 事務局の強化・効率化      ア) 事務局会議の設置；月1回、理事長参加の次長以上の会議      目的；事務局業務の共有と整理、課題・対応についての議論・検討、改善の実施等。</p> <p>イ) イルシー誌合理化検討；課題      事務局長より説明。イルシー誌の課題は以下の通り。      ・あまり価値が高くないと一部では認識されている。      ・各号のテーマが必ずしも明快ではない。      ・(ストックが多く) 物理的に事務所の場所を占めている。      対応策としてたたき台は以下の通り。      ○内容の見直し 機関紙に特化し、書下ろしは別出版物に。      ○媒体の変更 紙を電子媒体へ変えネット配信(アクセス権管理がかなり複雑になるが)。      対応策に対して以下のような意見が出た。      ・タイムリーな Newsletter 形式と定期の精選した紙媒体に分ける。      ・広く出す情報と会員の特典をはっきり区分すべき。      ・アクセス権は短期間限定(1年程度)で、それが過ぎたら会員以外にもフリーにする。      ・紙媒体は、会員以外にも贈呈できる便利さがある。      再度整理して、事務局より理事会に提案する。</p>
5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>第3回理事会が平成29年7月25日(火)15時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>1) 新理事就任の件      古野理事の後任として、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事の阿部圭一氏が理事に就任することについて全員一致で承認した。</p> <p>2) 特定非営利活動促進法の改正への対応と定款変更の承認      特定非営利法人促進法の改正内容の説明があり、その対応として当機構は毎年の貸</p>

借対照表を当機構のホームページに掲載して公告すること、またその旨を定款の第8章公告の方法の条文に追加することの2項目を提案し、特に異議なく承認した。

報告・討議事項

1) 健康な食事研究会進捗報告

3つのワーキンググループ(WG)活動方針、WG間の連携の在り方、研究会のルール、「健康な食事研究会の研究セミナー」の案内等が報告された。

2) 発展型 ILSI 新寄付講座創設について中間報告 2

当初「食のリスク」、「食の健康」の2テーマに絞り議論をしたが、社会課題と産業機会、オープンイノベーション、独自性の観点から事務局内で再度議論した結果、産業界の関心がより強いのは「食と健康」分野であり、かつ「ビッグデータ×AI(人工知能)」が大きなキーワードとなり、独自性が高く先頭を走る研究実績と産業機会から候補の一つとして弘前 COI に着目し、このディープデータと健診や生活から得るデータを組み合わせ、AI技術を駆使して、未病状態の見える化技術や個人に最適化されたテーラーメイド型のサービスやモノなどのソリューションプログラムを開発し、個別化予防の社会実装につなげる。このために弘前データの補完が必要となり、これを ILSI Japan の寄付講座で実施する、と報告した。この方向性や内容について、各理事より質問、意見が多数出た。

3) BeSeTo 会議 (8/31~9/1 開催予定)

今年のサテライトシンポジウムのテーマは、「食品アレルギー」で、新たに「今後の BeSeTo 会議の在り方」も討議する。

4) 研究会・研究部会の支援

全体の収支予測と各研究会・研究部会の収支実績から、仮に均等支給した場合の支給額の目安を事務局が提案した。各研究会・研究部会より活動計画&概算要求を提出してもらいそれを理事会で審査し、支援額を決めるとの確認があった。

また、当機構として保有すべき繰越金を提案し、会費収入がなくても人件費家賃等の支払が可能な金額を残す案が採択された。

5) Mandatory Policies の実行

ILSI Japan の Mandatory Policies を策定したので 確認いただきたいとの説明があった。すでに利益相反に関する開示書は各理事より入手、完了している。

6) ILSI 全体のガバナンス強化策

ILSI 全体のガバナンス、マネジメントを強化する為に、本部と支部の間に、各支部の事務局長から構成される組織体 ILSI Management Team を設立し、今まで本部で実行してきた役割を一部移す方向が決定されたと報告した。

7) 滞留「イルシー」誌の廃棄

2009年発行以後の「イルシー」誌の在庫を当事務所にて保管しており、ここ3年間2009年~2011年発行分は出荷がなく、保管スペースも不足しており、順次廃棄処分したい旨提案し、承認された。

9, 10 月

11, 12 月

第5回理事会が平成29年12月22日(金)16時から開催された。

## I. 決議事項

議案：今年度収支見込最終案、来年度収支予算最終案

今年度収支見込が連結ベースで損失になるが、その原因が CHP の収入面で JICA への応募による助成金が獲得できなかったことに起因すると説明。さらに来年度の収支について、東大寄付講座終了に伴う収入の減少、各研究会・部会活動の活発化による費用の増加、CHP の収入面の低迷が避けられず、連結ベースで損失となることについても説明。理事長より今後収入を増やすために、プロジェクト基金連絡会の当初の参加企業や行政に資金拠出の働きかけを実施すると発言があった。全員一致で原案が承認された。

## II. 報告／討議事項

### 1. 研究会活動の活性化

#### 1) 「健康な食事研究会」進捗報告

3つのワーキンググループに分かれ、これまで研究会を4回実施した。2/19の支部総会終了後の午後に、状況報告と討論会を実施予定。

#### 2) 寄付講座の今後について

この1年間、議論・検討を続行中。15年間実施した東大寄付講座は総括をする予定。新寄付講座として、弘前大学 COI の健康ビッグデータと人工知能技術の組み合わせによって、個人の未来の健康状態を予測し、病気・老化を予防し、健康をサポートするシステムを開発する寄付講座を検討中。

#### 3) 動物実験代替タスクフォース

食品分野における動物実験代替のプロジェクトが、ILSI Europe で始まり、アジア担当として ILSI Japan に協力要請があり、食品リスク部会が受けることになった。国立衛生研の小島先生に指導を仰ぎながら、第1ステップとして、動物実験が関与する関連法規の調査とまとめを行う。期待される効果として、EU の規制リスクを回避あるいは最小化できる有用な手段を獲得できる、有益な動物非使用技術を獲得できることで研究開発の効率化・迅速化が図れるがある。

#### 4) 研究会・研究部会への活動支援の審査結果報告

11/20 に会長、理事長、桑田副理事長、宮澤理事に審査いただいた結果、支援要請の4部会とも申請通り承認された。

#### 5) 「栄養とエイジング」国際会議の企画概要案・企画委員会案

総合テーマ：食事と運動による健康寿命の延伸（仮題）

構成：1部—健康な食事、2部—栄養科学と運動科学の融合

日程：2019/10/1～2

会場：東大農学部 弥生講堂一条ホール

企画委員長—宮澤理事、健康な食事の企画委員候補者10名、「栄養と運動」企画委員候補者—宮地先生を筆頭に5.6名程度

### 2. 2018～2019年役員改選

木村会長が次回の総会で退任、他は重任となる。

### 3. 本部総会

日程：1/19～24、場所：英領 バミューダ

ポイントは、「今回のスローガン—社会に貢献する科学」、「ILSI ガバナンス改

革」、全支部から公募の「科学セッション」。

ポスターセッションは、「健康な食事研究会」の方針・進捗と東京農大の煙山紀子先生の研究紹介。

科学セッションでは、日本支部として「MALDI - -TOF - -MS プロジェクト」を発表。

その他、アジア支部ミーティングが開催される。